

# 青郷小だより

令和3年12月号  
高浜町立青郷小学校



逆境の中に  
夢と希望を



校舎周りの足場がなくなり、きれいに塗り替えられた新しい校舎が、冬空に鮮やかな姿を見せ、子ども達が毎日元気に玄関をくぐっていきます。

2021年が、やがて終わろうとしています。今年の大イベント、東京オリンピックが、ずいぶん前のことのように感じられます。

年の最後に、私の母校の元になる師範学校で、地理の教師をしておられた方の、オリンピックにまつわるお話をご紹介します。

## 〈 マラソンの世界一遅い記録 〉

「金栗 四三（かなくり しそう）」 日本初のオリンピック選手  
1912年 スtockホルムオリンピック マラソン競技に出場

大会当日は 気温が40℃を超える猛暑日 選手の約半数が途中で棄権  
金栗選手も 26.7km地点で意識を失って倒れ 近くの農家に救助される  
目が覚めた時は 競技の翌日になっていた

その後 金栗さんは 日本のマラソンの普及に尽力  
現在の箱根駅伝を創設 日本マラソンの父と呼ばれる

金栗さんが74歳になった時 ある一通の手紙がスウェーデンから届く  
中には「ストックホルムオリンピック開催 55周年記念式典」の招待状が

金栗さんは 54年ぶりに スtockホルムに向かいました  
まず 当時助けてもらった農家へ行き お礼の挨拶をしました  
すると 同行していたオリンピック委員会の方から ある提案が  
「ここが あなたがリタイヤした場所です ここから当時のオリンピック  
スタジアムまで行きませんか？」

スタジアムまで車で向かうと スタジアムの近くで降ろされ また提案が  
「せっかくなので ご自分の足で 中に入りませんか？」

金栗さんは 1人でスタジアムの中へ  
夜になり 真っ暗で 静かな スタジアム

すると 突然 スタジアムに照明が灯り アナウンスが  
「日本の金栗が 半世紀の時を越えて 今スタジアムに帰ってきました！」  
見ると 観客席には多くの観客 トラックの先には ゴールテープが

金栗さんが見つかったのは 競技の翌日 実は「棄権」ではなく  
「競技中に失踪し 行方不明」という扱いになっていたのです  
まだレースは終わっていませんでした 金栗選手が ゴールテープを切る

「日本の金栗 ただ今 ゴールイン！  
タイムは 54年8か月6日 5時間32分20秒3  
これをもって スtockホルムオリンピック 全日程を終了します！」

ゴール後 金栗選手のスピーチ  
「長い道のりでした この間に 10人の孫ができました」

テレビドラマ「陸王」で登場した マラソン足袋は  
金栗さんが競技中に履いていた 「金栗足袋」がモデルとされています

みなさんがよく知っている 大阪道頓堀 「グリコのマーク」のモデル  
金栗四三さんのお話です

金栗さんにとって悲劇だったはずのオリンピックが、後に大きな喜びに変わりました。

今年も新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。  
しかし、子ども達が将来大人になった時、「毎日マスクをしていたけれど、こんな楽しいことがあった。こんなことができるようになった。」と、小学校生活が、必ずよい思い出になるようにしたいと思っています。

2022年は、もっと「夢と希望」を持てますように…  
まだ少し早いですが、よいお年をお迎えください。

## ふれあい体験活動

先月に、育友会「ふれあい体験活動」を実施しました。本年度も、感染予防対策として密を避けるために、15のコースを設け、各学年ごとに選択したコースに分かれ、親子での体験活動に取り組みました。

子ども達は、普段の学校生活とはまた違う、うれしさにあふれた笑顔で親子での体験活動を楽しんでいました。子ども達のために、活動の計画から当日の準備そして片付けまで、ご尽力いただいた役員の皆様、お忙しい中一緒に活動してくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。



※ 子ども達の学校生活の様子をブログでも紹介しています。  
ぜひ、ご覧ください。



〈 <http://seikyo.takahama-town.com/> 〉

学校ブログ〈QRコード〉